

令和5年度 事業報告

社会福祉法人北海道拓明興社

令和5年度、新型コロナウイルスが5類感染症として位置づけられたことにより、徐々にコロナ前の生活に戻りつつあります。これに伴い、活動再開に向けて動き出しました。

町内で初めて開催した「地域食堂」では、子どもたちを中心に地域課題の調査と活動に取り組みました。また、小学校への手話授業を行い、関係機関や団体のご支援をいただきながら、幅広い福祉課題に対応するためのネットワークの拡充も図りました。

【施設サービス】

コロナ前のサービスに少しずつ戻していくため、しばらく中止していた納涼祭を、今年度はご利用者と職員のみで開催しました。奈井江備中神楽の皆さんをお迎えし、外部との繋がりを少しずつ取り戻すことができました。

さらに、町内のお祭りにも参加し、ご利用者の笑顔が戻ってきたように感じました。しかし、ご利用者が高齢化・重度化していく中で、幅広い支援が求められると同時に、制度も厳しくなっています。

そのため、職員の支援の質を向上させ、ご利用者の生活の質をさらに高めることに努めています。

【生産活動】

今年度は、箒の委託販売業者との連携が実現し、販売先が拡大しました。これにより、より多くの顧客層に製品を届けることができました。

一方で、ご利用者の皆様に支払う工賃は昨年度とほぼ同じ水準を維持しています。しかし、全体の売り上げは減少傾向にあります。

この状況に対応するため、新たな製品開発や既存製品の品質向上、販路の拡大などの対策を講じる予定です。ご利用者の社会参加と自立を促進し、安定した工賃支給を続けながら、今後の活動をさらに充実させていきます。